

まず新事務局（愛知大学牧野由朗会員、渡辺正会員）と新委員の紹介が行なわれ（十二頁参照）、会の連絡運営を円滑にするため地区別の連絡係をつきのように決めた。

北海道地区 白樺 久

東北地区 田原音和

関東地区 島崎 稔

東海・関西地区 松本通晴

中・四国・九州地区 木下謙治

つづいて、今年度の共通課題について検討された。大会会場での会員からの課題提案と各運営委員の意見が紹介されたが、イエ・ムラの原理的検討、および現代の農政の批判的検討という二つの問題におおよそ集約することができ、共通課題を「農政とむら」という方向で設定するよう検討し、次回運営委員会で決定することにした。そして共通課題が決まり次第宿題委員会を編成し課題研究の具体化を急ぐことになった。

また編集委員については、今後の「年報」の出版契約の交渉等の関係もあるので中野卓会員、安原茂会員を中心に組織することにし、次回運営委員会で選出することになった。

運営委員会報告

第一回運営委員会

新しい事務局のもとで新運営委員による第一回運営委員会が、一九八

二年十月十八日、大会会場の茂庭荘で開催された。

第二回運営委員会

第二回運営委員会が、一九八二年十一月二十七日、中央大学会館で開

催された。議題は、

一、一九八三年度予算について

一、共通課題の決定と宿題委員会の組織について

一、編集委員会の組織について

一、研究会の開催について

一、その他

総会で来年度から予算をたてて会の運営を行なうことが決定されたが、今年度は、とりあえず運営委員会で検討することにし、事業計画などとあわせて審議された。審議決定内容は次のとおり。

一、予算、事業計画について

(1) 運営委員の地区別について

今年度から、中国・四国・九州地区を設け、全国を①北海道、②東北、③関東、④東海・関西、⑤中国・四国・九州の五地区に区分する。

(2) 「研究通信」は一月、四月、六月、九月の年四回発行の予定とする。

(3) 共通課題設定の参考資料および会員相互の研究交流を深めるために各会員の研究動向をアンケート調査し、「研究通信」誌上で紹介する。

(4) 会員名簿の改訂を行う。

(5) 事務局委員の交通費については、一名分実費を補助する。運営委員の交通費については、三〇〇円を超える委員に三千円を補助し、これらは、会議費で支出する。

(6) 編集委員会に編集費として、連絡通信費のうちから一万円を付託する。

(7) 本年度予算は、とりあえず別表のとおりとする。(十三頁)

二、共通課題と宿題委員会について

(1) 課題は「農政と村落（むら）」とする。

(2) 上記課題設定の位置付け、あるいは研究のための柱だて等、研究の枠組を具体的に検討し、研究会でそれを深化させる。

(3) その場合、研究方向の基本的視点として、

(4) 歴史的アプローチを中心に、「農政と村落」についての歴史的展開を整理し、できれば段階区分を行なって、それにもとづいて研究を進めることが必要である。

(5) 生産調整や地域農業など行政による村落（むら）の見直しと再編成が展開されており、この現代段階における農政と村落の実態をどう把握したらよいか、今日的な問題として再検討する必要がある。

などが提案され、今後の研究会では、これらの諸問題を基本にしながら研究を進めて行くことにし、宿題委員会でさらに研究の進め方など具体的な事項について検討する。

(6) 新宿題委員は別表のとおりとする。(十三頁)

(7) 研究会は、大会に向けて三回開催する。第一回は、一月末または二月初めに開催し、共通課題の基本的問題について研究する。

第二回は、五月頃に、各地区ごとに全体研究会の方針にもとづいて研究を深める。

第三回は、七八月に、全体で各地区の研究会の成果を集約、検討する。

三、編集委員会について

- (1) 編集委員は別表のとおりとし、委員の内に幹事を二名置く。
- (2) 編集委員会の役割は、主として編集事務および自由投稿審査等とし、年報出版についての出版社との交渉等については、在京委員が接渉し、重要事項については運営委員会で確認決定する。
- (3) 三〇周年記念号については、外国における村落研究の動向をできれば掲載する。また「自由報告についての編集方針」を研究通信で広報し、徹底をはかる。

四、その他

- (1) 第三十一回大会の開催は、茨城県久慈郡大子町の予定であることが紹介され、時期は十月中旬に計画する。
- (2) 「年報」のバックナンバーを整理し、必要部数を保存して、残部は要望のある方に頒布する。また「研究通信」については、希望者に送料込みで一部二〇〇円、とくに厚部の号は三〇〇円で販売する。